

地域医療連携室だより

No.25
2018.09



写真：富士とススキ（外科 杉野 圭三）

平成30年7月の豪雨災害で亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、
被災された皆様方にお見舞い申し上げます。

室長の
つ・ぶ・や・き

7月、皆さま豪雨の影響はございましたか。お見舞い申し上げます。
自然災害にはあらがえない、突然、町が、人生が一変してしまう。
73年前の8月、突然降ってきた原爆で町が、人生が一変。



8月6日、今年は平和記念式典に参列した。死没者名簿に母の名が書き加えられ、奉納される日であったから。参列したといっても、熱中症怖さから涼しい国際会議場のライブ映像をとおしてのなんちゃって参列。後日、「式典に参列しました」という患者さんに、「私も」と言ったものの、その方は屋外で正式に参列したそうだ。敗北感・・・やっぱり私って中途半端よね。

あの日あの時、母は、寮で朝食後に先輩と豆菓子を食べていた。豆を噛んだ途端にピカドン。一人奇跡的に無傷で助かった。親兄妹にも何も語らず、「自分ひとりだけ生きていいのか」とだけ言ったことがあるそうだ。私にも多くは語らなかつた。「みんな皮膚がぶらさがって・・・私だけ服を着て恥ずかしいような・・・」あのにおいは伝えられない。十数年前、被爆者が描いた生々しい絵にショックを受けた私に「あんなもんじゃない」とひとこと。あの絵以上に凄惨な状況の中を、13歳の女の子がただひとり彷徨っていたのかと思う心が締めつけられる。そして他の多くの子供も大人も人生が一変してしまったのだと、平和公園を歩くたびに考えるようになったのはここ1-2年。幼稚園の遠足で、なーんにも知らずにはしゃいだ平和公園を・・・
「ポーっと生きてんじゃねーよ！」とチコちゃん*に叱られそうだ。

最近では天災や事故ですべてが一変というニュースが続く。自然災害では、「自分は大丈夫」という気持ち捨てて皆で助けあい、早めに避難するのが鉄則。昨日は人の身、今日は我が身・・・などと考えながら 先日、某デパートの下りエスカレーターに乗っていた。突然、後ろからガタガタガタツという音が近づいてきた。振り返るとすぐ後ろに黒いキャリーバッグが、と思ったらあつという間に私の横を転がり落ちて行った(実話です)。後ろから来た女性がキャリーバッグを拾いに行く。そして、「大丈夫でしたか？」と私に言う。幸い私にはかすりもしなかつたし、階下にいた人にも直撃しなかつた。えー何？エスカレーターに乗ったときに思わず手が離れたのか？後ろに目はない。私に直撃していたらと思うと身震いがした。きつこの原稿は完成していない。まさにいつ何が起こるか分からない、ポーっと生きてちゃいけない。五感を研ぎ澄ませていなければ・・・

以来、私は下りのエスカレーターに乗れなくなりました。エレベーターにするか。いや、事故で閉じ込められるかも。そうだ、階段を使おう。サルコペニア予防のために。「筋肉」は大事。また今回も「筋肉」でオチをつけてしまいました。

*チコちゃんとはNHK総合テレビで放送されているクイズバラエティ番組「チコちゃんに叱られる！」の好奇心旺盛で何でも知っている5歳の女の子のことです。

地域包括ケア病棟 訪問



平成29年8月1日に『地域包括ケア病棟』を開設してから1年が経過しました。この1年間を通して、病棟スタッフや退院支援リンクナースがどのように患者様・ご家族と関わってきたのか様々な声を拾ってみました。

病棟の様子



朝の申し送り前



PNSで業務の確認



病棟医と指示確認



師長、退院支援看護師、MSW、PTと毎日カンファレンス

Q: ナースサイドリハビリはどのようなことをしているのですか？

A: ご本人・ご家族がどのような状態を希望しているか確認します。理学療法士に現在のADLをみてもらい、リハビリメニューを立案、看護師にレクチャーしてもらって実践しています。困ったことやもっとできそうだった時などはメニュー変更もしています。

Q: これからの抱負

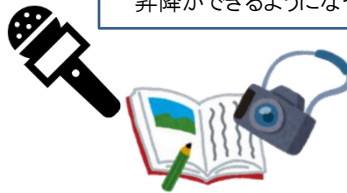
A: 入院によりADLが低下しないためにもリハビリに力を入れて、患者様・ご家族の意向に沿った退院支援をすすめていきたいです。

Q: 退院支援を行うにあたって困難な場面はありますか？

A: 家族間での話し合いで方向性が決まらず、調整に時間を要することがあります。また、臥床している患者様を見て「こんな状態で独居は難しい」と家族が不安になることが多いです。入院中にADLが低下しないよう、退院後の生活を見据えた支援や調整ができるよう心がけています。

Q: 退院支援を通じて嬉しかったことや、やりがいを感じた時を教えてください

A: 一般病棟から転床時、車椅子に座れる程度だった患者様が、理学療法士と連携してナースサイドリハビリを行うことで、歩行5m、ズボンの上げ下し、目標であった階段昇降ができるようになった時です。



ベッドコントロール会議



リハビリの様子

(写真の掲載についてはご本人の了承を得ています)

4日間、地域包括ケア病棟を見学してみて

- 地域包括ケア病棟のスタッフは、声が大きく、表情が豊かで、病棟全体の雰囲気がとても明るく活気があると感じました。
- 看護スタッフ間で、毎日カンファレンスを実施しており、特徴的なのは『毎日』『全患者』の内容を話し合っていることです。現病歴、生活や家族の背景、現在の状態、転倒のリスク、退院支援の進行状況の確認等をしていました。
- 患者様がベッドから離れようとしていると、近くにいる看護師が付き添い、声かけを行い、患者様を見守っています。患者様を理解しているからこそ、できる行動だと思います。患者様やご家族が安心して入院生活を送っていただけるような環境づくりがなされていました。
- また、理学療法士やMSW、病棟医の来棟が頻回にあり、病棟スタッフや退院支援看護師、管理者との情報共有の場面が多く見られました。
- 60日以内に退院調整するには、実際に難しい状況も多々あるようですが、患者様の意思を尊重し、住み慣れた場所でその人らしい生活を送ることが出来るよう支援していました。

〔地域医療連携室 土田 陽子〕

新生児集中ケア認定看護師

Neonatal Intensive Care

NICU主任 山根 理絵



必要とされる知識と技術 (一部)

- ・ハイリスク新生児の病態変化を予測した重篤化の予防
- ・生理学的安定と発育促進のためのケアおよび親子関係形成のための支援

《日本看護協会より》

当院に入職してNICU配属になり、たくさんの赤ちゃんに出会いました。小さな赤ちゃんが、保育器の中で一生懸命生きようとしている姿には強い生命力を感じました。当時私は壊れてしまいそうなどとも小さな身体に恐々ながらもケアにあたっていたことを覚えています。

医療の発展とともに、「治療の場」として重きをおいていたNICUも『後遺症なき生存』『ファミリー・センタード・ケア』という言葉が多く聞かれるようになり、治療を行いながら児の成長、発達を考えたケア、そして家族と一緒に協働していく、そういったケアが求められるようになりました。

認定看護師の存在を知り2007年に広島県看護協会でも新生児集中ケア認定看護師教育課程を7か月間研修し、2008年に新生児集中ケア認定看護師を取得することができました。研修での多くの学びと当時の仲間は今でも私の財産となっています。そして今年10年目を迎えました。赤ちゃんだけでなく家族を含めたケアがとても重要と考えています。医療的ケアが必要でなかなか家に帰れない赤ちゃんもいます。入院から退院を見据えた関わりと、地域と連携しながら赤ちゃん、そして家族を支援していきたいと思っています。

当施設では、循環器を専門とした先天性心疾患児の管理や術前術後、早産児、低出生体重児や呼吸障害など幅広い赤ちゃんを看ています。赤ちゃんの反応やサインを見逃さず、赤ちゃん、家族のことを考えたケアを実践できるように日々努力しています。

実践・指導・相談



スタッフと一緒に日々の業務で実践を重ねながら、指導を行っています。言葉を発さない赤ちゃんにとって観察はとても大切です。看護師の細やかな目が赤ちゃんの小さなサインを逃しません。また家族との関わりはとても重要で、赤ちゃんが家族の一員として迎えられるように支援しています。



NICUの様子

非常勤講師



看護専門学校へ非常勤講師に行っています。ほとんどの学校ではNICUの実習がないため、現場のことが伝わるように、写真や事例をもとに講義を行っています。学生の素朴な質問が学びを深める機会にもなり、私も一緒に学んでいます。

百日のお祝いするよ

社会活動



優しくホールディング
いい子にねんねだよ(^o^)

広島県の新生児集中ケア認定看護師で発足している「ねおねいたるくらぶ」で活動をしています。広島県のNICU施設がある病院をはじめとして、産婦人科医院やクリニック、小児科病棟などの看護師や多職種を対象とした研修の企画・運用に携わっています。学べる場として、各施設間で情報を共有できる場として活用していただければと思います。

《疾患を持つ方とご家族、又は興味のある方ならどなたでも参加できます》

教室名/時間	月日	内容[担当]		お問い合わせ
慢性腎臓病の食事教室 14:30~15:30	10/3	水	「減塩」	腎疾患関連 統括師長
	11/7		「たんぱく制限」について(基礎)	
	12/5		「エネルギー」の摂り方	
慢性腎臓病教室 10:30~11:30	9/18	火	「糖尿病とCKD」	腎疾患関連 統括師長
	10/16		「心血管疾患とCKD」	
	11/20		「CKDの基礎知識」	
心臓病教室 14:30~15:30	10/1	月	心不全について [医師]	心臓血管 センター
	11/5		のぞいてみよう 見える油と見えない脂 [管理栄養士]	
	12/3		運動のウソ?本当? [理学療法士]	
糖尿病教室 14:00~15:00	9/14	金	糖尿病の飲み薬の基礎知識 [薬剤師]	お薬窓口
	9/28		⑥糖尿病の知識 嘘と本当 [医師]	
	10/12		元気に過ごそう!秋の糖尿病生活 [看護師]	
	10/26		①糖尿病の基礎知識 [医師]	
肝臓病教室 14:30~15:30	9/10	月	お休み	北外来
	10/22		肝臓の検査/B型肝炎ってどんな病気? [検査技師/医師]	
	11/26		肝臓病の栄養について/C型肝炎—最近の話題— [栄養士/医師]	

足腰を鍛えましょう!

医療安全:転倒防止対策

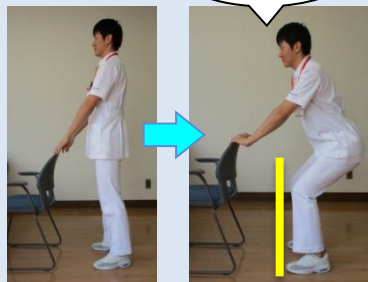
◆『傘ぼん』登場!!

雨の日に、床に傘がぼたぼた・・・「思わずツルっとこけそうになった!」「ビニールのかさ袋が、ええがいに開かんのもよ・・・」という声にお応えして、購入しました。これなら、ワンタッチでビニール袋に傘が入ります♪



立位

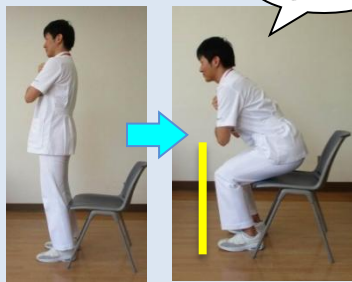
膝が前に出ないように



10回×3セット

椅子を使って

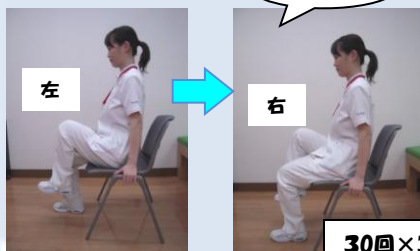
ゆっくり座ります



10回×3セット

座ったまま

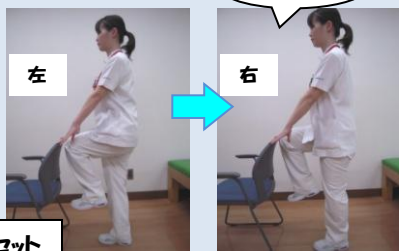
足踏み



30回×3セット

椅子を使って

足踏み



《地域連携室》スタッフ

室長	消化器内科部長	荒滝 桂子
転院相談	看護師	管理看護師長 伊美 礼子 土田 陽子 楠本 万理
紹介予約	事務	高橋 正江 山崎 貴子 宮本 早紀
医療相談	MSW	林 愛子 清水 香保里 桂木 真由美 福岡 紗季 印藤 由紀 宇野 淳子
入退院センター	看護師	内部 麻紀 亀井 久美子 松本 慶子 宮本 江里子 村尾 麻衣 山田 舞衣

医療法人あかね会 土谷総合病院 〒730-8655 広島市中区中島町3-30

*地域医療連携室(紹介予約専用)*TEL:082-243-9222 FAX:082-243-9223